

【桜梅桃李～編集後記～】GX編集部長 佐藤栄宏

「大きな夢や理想」を語ることのできるリーダー

識者コラム 2023/08/10 03:00

share



桜梅桃李

～編集後記～

G X編集部長 佐藤栄宏



平和のための映画上映会をPRする清松芳夫さん＝宇佐市



アキレス腱を断裂しながらも映画上映会をアピールする清松芳夫さん（手前）と妻の容子さん

「平和な世の中にしたい」「思いは人に伝わる」一。そんなシンプルな気持ちから、平和を考えるための映画の上映会（8月12日午後1時半から・宇佐文化会館）の開催に取り組む一人の経営者がいる。

清松総合鉄工（宇佐市）社長の清松芳夫さん（62）。彼の会社を取材したことがある。社員一人ずつとハイタッチして始まる朝礼では、社員が自身の業務上のミスを“告白”する「ええじゃないか運動」がある。他にも、同僚の仕事上の配慮や思いやりなど気づいた良い点を褒める「いいね運動」など、ユニークな取り組みもある。

老若男女の従業員と言えは大きさが、外国人の従業員も含めて、小学校低学年の授業のように、次から次へと発表の手が挙がる。この朝礼の光景は驚きだった。これらの取り組みの狙いは、失敗しても責めないことで学びの機会に変えることや、従業員同士が関心を持ち、互いに好きになってもらうことだ一と聞いた。

清松さん自身、父親から経営を引き継いだ後、従業員のことをあまり信じられずに、常に“上から目線”で接していた時期があった。それが原因で、大きな痛手を追った経験がある。そこから、学んだことが、これらの取り組みの出発点となったという。

その清松さんが、ロシアのウクライナ侵攻をニュースで見ると、「平和の大切さを伝えるために、何かしたい」と考え、ひとり取り組み始めたことが上映会。映画「音楽劇 桜の下で君と」は、太平洋戦争の特攻隊を背景とした教官と教え子の絆の物語で、お笑い漫才コンビ「アップダウン」が笑い歌で伝える音楽劇を映像化したもの。

清松さんは、多忙な業務の傍ら協賛社を募ったり、友人や知人をつてに入場券を販売したり、小中学生対象に無料入場券を用意した。交流サイト（SNS）で情報発信するだけでなく、ラジオやテレビにも出演し上映会をアピール。6月、転んで右足のアキレス腱（けん）を断裂し17日間、入院するアクシデントもありながらも、平和への思いを語ってきた。

誰に求められることなく、一人で始めた行為。会社の業績向上に直接、つながるわけでもない。入場券の売り上げも良いとまではいえない。それでも、清松さんは「この世界で役に立っていると感じる。周りの人が喜ぶことが自分の幸せ。人同士が信じられる世の中にしたい」と愚直に語り、上映会が始まるまで妻で専務の容子さん（61）と、走り回っている。

清松さんは、朝礼の「いいね運動」を続けて会社の業績を上げ、従業員と宇宙旅行することを会社の目標に掲げている。そういう社長の姿を見て従業員らは業務だけでなく映画上映会にも協力しているという。人の心を信じて「大きな夢や理想」を周囲に語ることのできるリーダーの姿に僕はいつも、心を動かされ、頼もしく感じている。

映画「音楽劇 桜の下で君と」。一般席千円。小中学生無料招待券は、引率者の同行が必要。申し込みは、同社ホームページや清松総合鉄工（0978-32-2176）。

- 「音楽劇 桜の下で君と」の専用サイトはこちら

Profile

さとう・ひでひろ 1973年生まれ。横浜市立大学文理学部卒。大学時代は探検部に所属。1996年に大分合同新聞社入社。本社、別府支社、津久見支局、竹田支局、西部総局などで勤務。2023年から現職。詩人。大分市在住。

Back number

- > 【桜梅桃李～編集後記～】GX編集部長 佐藤栄宏 「大きな夢や理想」を語ることのできるリーダー